

【R e b o r n、進化する農家のカタチ～全国農業青年交換大会～】

平成26年度全国農業青年交換大会が平成27年1月21日から23日の3日間、愛知県を主会場に東海3県で開催されました。有志のメンバーで構成される実行委員会が主催で、三重県のクラブ員は実行委員や当日スタッフも合わせて14名が参加し、全国から200名以上の農業青年が集いました。

今大会のテーマ「R e b o r n」、スローガン「進化する農家のカタチ」には、時代の流れに乗って進化し、新しい農業の時代を切り開くという思いが込められています。

開会にあたり、全国農業青年クラブ連絡協議会会長は「ここに参加した皆が地域農業のリーダー。自分は日本の農業をカッコ良くしたいと考えている。原油や資材費の高騰など厳しい状況だが頑張っていきたい」と話し、実行委員長からは「今日という日を迎えられて良かった。3日間という限られた期間だが楽しんでほしい」と挨拶がありました。

初日は、平成24年度優良畜産経営管理技術発表会で農林水産大臣賞を受賞した、有限会社広野牧場代表取締役による基調講演、平成25年度の全国青年農業者会議入賞者による意見発表とプロジェクト発表があり、2日目以降は愛知県、岐阜県、三重県の3コースに分かれての現地視察が行われました。

基調講演では、6次産業化や多角経営に取り組む講師に対し、集客方法や気をつけていることについての質問が出ました。集客方法についてはテレビ・ラジオ・新聞での情報発信が大きいこと、リピーター獲得が重要であること、心がけについては周囲との関係作りを大事にしているとの回答がありました。地域農業を担っていく参加者の指針となるような大会の幕開けとなりました。

2日目以降の三重県コースには約40名が参加し、園芸植物の生産・卸販売、小売販売を行う植物園のほか、酒造会社、県農業研究所等を見学しました。植物園では珍しい植物に見入っており、農業研究所の植物工場では竣工費用や肥料についての質問が出るなど熱心に見学していました。

3日間で知識と交流を深め、同年3月に行われる全国青年農業者会議での再会を約束する様子も見られ、今後の農業を担う青少年クラブ員の成長に期待が高まります。



開会式典



4Hクラブ員による「大会宣言」



農業研究所も熱心に見学